

片淵須直、こうの史代、コトリング、尾身美詞ら
大ヒット映画『この世界の片隅に』制作メンバーが再集結した新作 WEB アニメーション

わたしの名はオオタフクコ ～小さな幸せを、地球の幸せに。～

オタフクソースの新コーポレートスローガン
「小さな幸せを、地球の幸せに。」をテーマに描いたちよっと心温まる全3話

じゅう じゅう
10月10日(水) “お好み焼きの日” からその1を公開

YouTube 動画 URL : <https://youtu.be/S5OB3EDmiNU>

オタフクソース株式会社（広島県広島市、代表取締役社長 佐々木直義）は、2018年10月より新たに策定したコーポレートスローガン「小さな幸せを、地球の幸せに。」を訴求する WEB アニメーション『わたしの名はオオタフクコ～小さな幸せを、地球の幸せに。～』その1（全3話）を、“お好み焼きの日”の2018年10月10日（水）午前10時より、オタフクソース YouTube 公式アカウントで公開します。



本作品には、監督・脚本の片淵須直監督をはじめ、大ヒット映画『この世界の片隅に』を手掛けた豪華メンバーが参加。キャラクター原案はこうの史代さん、音楽はコトリングさん、主人公の声を演じているのは、「この世界の片隅に」で径子を演じた尾身美詞さん、アニメーションはMAPPAが制作しました。

その1は、1028歳の主人公・オオタフクコが、戦後の広島で出会った「一銭洋食」（お好み焼きの原型となった鉄板料理）を通じて、行く先々で一緒に鉄板を囲んだ人たちに、小さな幸せと笑顔の輪を広げていく姿が、コミカルかつほのぼのとした世界観とともに描かれます。

なお、今回のその1に続いて、その2は11月上旬より、その3は12月上旬より順次公開予定。時代を越え、国境を越えて旅するオオタフクコが描かれます。

<当リリースへのお問い合わせ先> 広報代行（株式会社 電通パブリックリレーションズ） 担当：新井

TEL：080-1245-2931 Email：kenta.arai@dentsu-pr.co.jp

<オタフクソース株式会社に関するお問い合わせ> オタフクホールディングス株式会社広報部 担当：大内

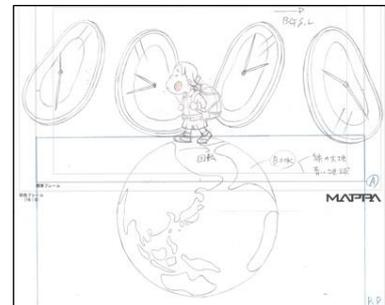
TEL.082-277-7112 Email：youuchi@otafuku.co.jp

WEB アニメーション 概要

- タイトル : 『わたしの名はオオタフクコ～小さな幸せを、地球の幸せに。～』 その1
- 公開日 : 2018年10月10日(水) 10:00～
- 公開先 : オオタフクソース YouTube 公式アカウント <https://youtu.be/S5OB3EDmiNU>
- 特設頁 URL : <https://www.otafuku.co.jp/corporate/lp/animation/>
- 制作スタッフ : 監督・脚本 片渕須直
キャラクター原案 こうの史代
音楽 コトリング
声優 尾身美詞/オオタフクコ
アニメーション制作 MAPPA
- 今後の予定 : その2は11月上旬より、その3は12月上旬より公開予定



その2 イメージ



その3 イメージ

キャラクター



オオタフクコ

長い長い時を生き続けている永遠の1028歳。自由気ままな性格で、長い長い時を生き続けているわりに、いつまでも子どものように無邪気なまま。食いしん坊で、お好み焼きを焼くのが得意。

コーポレートスローガンについて

小さな幸せを、地球の幸せに。

当社は昨今の多様化する食シーンにおいて、美味しいお好み焼きを囲む「小さな幸せ」を、国境や人種を問わず、新たな発見とともに社会全体へ広げていきたいという想いから、2018年度のコーポレートスローガン「小さな幸せを、地球の幸せに。」を新たに策定しました。これにより国内の変化に柔軟に対応しつつ、現代に不足しがちな「小さな幸せ」を体現し、その形が地球にも似ている「お好み焼き」と「オオタフクソース」の海外展開を、より加速させていきたいと考えています。

今回のWEBアニメーションでも、主人公のオオタフクコが時代を越え、国境を越えて、普遍的な「小さな幸せ」に出会うストーリーが展開されています。

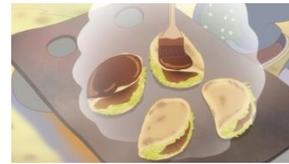
ストーリーボード



わたしの名は
オオタフクコ、
1028 歳。



SE：じゅわ〜っ



SE：じゅわ〜っ



長い長い
時を生きている。
神様かって？



SE：じゅわ〜っ



わたしの名は
オオタフクコ、
1028 歳。



いや、
わたしだって怒ったり
落ち込んだりする。



いっしょに笑えるって
いいね



いろいろありながら
人間の世の中を、
ずうとずうと〜と
生きている。



SE：じゅわ〜っ



と思っている。



ずうとずうと生きてきて、
ここにたどり着いた。



SE：ぐう〜



小さな幸せを、
地球の幸せに。



戦争もいっつも見てきたけど、
これはなかなか
たいへんだったね。
みんなお腹を空かせてる。



子どもたち
：おいしそう〜
いいなあ〜
しっしっ！



SE：ぐう〜
わたしもお腹が空いた。
誰も食べさせて
くれそうにない。



自分で焼ごう。



男の子
：はい！
おお？



SE：じゅわ〜っ



SE：シャツシャツシャツシャツ

この史代さんの連載作品をヒントに誕生した愛すべきキャラクター

自由気ままで食い意地が張っていても、どこか愛嬌があって憎めない存在のオオタフクコ。この人物像は、この史代さんの連載作品『百一 hyakuichi』（週刊漫画ゴラク）のキャラクターをモチーフに誕生した。片淵監督によると「基本的にダメな人」とのことです。そんな個性的な主人公が広島でお好み焼きに会ったことによって、どんな風に自らと周りの人々を幸せにしていくのか。時代を越え、国境を越えて旅するオオタフクコの数奇な人生にご注目ください。

こだわりの調理シーンに活かされた片淵須直監督の実体験

主人公同様、見ていだけで思わず舌なめずりしてしまいそうな、鉄板で調理するシーン。臨場感たっぷりのカットの背景には、「広島にあるお店を2日間で6軒回って、具材や手順、焼き方、味を取材し、自分の家でも実際に焼いて食べました。ひとくちに一銭洋食といっても、それぞれ個性があって、どれもすごく美味しかったです」という片淵監督の研究成果が存分に活かされています。

コミカルな主人公の魅力を引き立てる尾身美詞さんの語り口

オオタフクコの声優を担当した尾身美詞さん。『この世界の片隅に』で演じた、主人公に厳しく当たる気の強い女性役とは打って変わって、今回の作品はコミカルなキャラクターと語り口が印象的で、尾身さんの新たな魅力をお楽しみいただけます。ちなみに、片淵監督が広島滞在中、たまたま尾身さんも別の仕事で現地を訪れていたことから、みんなで一緒にお好み焼きを食べて、盛り上がったのだとか。今夏には原爆乙女を描いた演劇の広島公演にも参加するなど、何かと広島に縁のある尾身さんでした。

片淵須直監督インタビュー

——今回のオファーを受けた時の率直な心境をお聞かせください。

2010年の夏、映画『マイマイ新子と千年の魔法』の舞台挨拶で訪れた際、初めて広島のお好み焼きを食べて、それが私と広島との最初の出会いでした。その後、『この世界の片隅に』の制作を経て、広島を自分が住んでいる場所のように感じられたらいいなと思い続けてきた中、広島をルーツに持つオオタフクスさんから届いたオファーということで、とても嬉しかったですし、自分たちが広島という街に根付くことができたのかなという思いを抱きました。

——本作品のストーリーや世界観が生まれた経緯について。

オオタフクスさんから最初に今回のテーマを伺った時、「時の流れ」のようなものを描くことになるのかなと思い、広島出身のこの史代さんに相談したところ、彼女が連載する作品の主人公がたまたま「おたふく」をモチーフにしている。しかも年齢が1028歳で、まさに時の流れをそのまま象徴している。そこで時の流れを生きている主人公が、ある日お好み焼きと出会い、自分や周りの人たちを幸せにしていみたいなことを描いたら面白いかなと。また、『この世界の片隅に』が戦前から終戦直後を描いた物語なので、その辺りの時代から始まって、現代につながるような話になると、より興味深い作品になるんじゃないかと思いました。

——主人公のオオタフクコさんのキャラクター設定について。

このさんの漫画の中では、職業が夜の蝶ということでしたので、今回はその仕事に就く前に、お好み焼きを焼いていたという設定にしました。年齢は1028歳ですが、食い意地が張っていて、自由気ままで、基本的にダメな人です（笑）。何だか長く生きてると、いろんなことを悟っちゃった人格者になりがちですが、そうじゃない方が親しみを持てますよね。日々庶民の中で、新しい発見をしながら生きてきて、その中でお好み焼きとの出会いがあり、人間的にはあまり学習していないけど、大好きなお好み焼きだけは確実に手の内に入れた。その特技の部分膨らませたキャラクターという感じでしょうか。

——監督自身、ここを見てほしいというポイントはどこでしょうか？

ただ、お好み焼きが好きで、行く先々で焼いていたら、いつの間にか立派なことをやっていて、世界中のいろんな人の役に立っていたという、オオタフクさんの人間像、生き方をぜひ見ていただきたいですね。

——アニメーションをご覧になる視聴者の皆さんにメッセージをお願いします。

お好み焼きはみんなで鉄板を囲んで食べるので、自然と笑顔になりますよね。その笑顔が世界中に広がっていけばという思いを、今回の作品に込めました。そして、いま自分たちが食べているお好み焼きや普段の食事について、時代を遡って考えることで、時の流れを感じていただき、その先の未来を考えるきっかけにさせていただけたらと思います。

片淵 須直 (かたぶち すなお)

1960年、大阪府出身。日大芸術学部映画学科在学中から宮崎駿監督作品『名探偵ホームズ』に脚本家として参加。『魔女の宅急便』で演出補を務めた。1996年、TVシリーズ『名犬ラッシー』で監督デビュー。2009年の監督作『マイマイ新子と千年の魔法』は口コミで評判が広がり、異例のロングラン上映とアンコール上映を達成。脚本・監督を手掛けた。



ここの史代さんプロフィール

ここの 史代 (ここの ふみよ)

広島県出身。1995年に『街角だより』でデビュー。2004年に発表した『夕凧の街 桜の国』で第8回文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞、第9回手塚治虫文化賞新生賞を受賞。「漫画アクション」(双葉社)に連載された『この世界の片隅に』(07~09)は、第13回メディア芸術祭マンガ部門優秀賞、「THE BEST MANGA2010 このマンガを読め！」第1位などを獲得。今回の作品のモチーフにもなった1コマ漫画『百一 hyakuichi』が、「週刊漫画ゴラク」(日本文芸社)で連載中。

コトリンゴさんコメント

主人公は永遠の1028歳、ということでしたので、お好み焼きの妖精なのかな？というお話を監督からお聞きしたので、なんとなく浮世離れたような、どこか雅な感じが出ると思いなと考えました。出だしは、その浮世離れた感じを出すために、少しシャリンシャリンとした音を入れてみたりしています。

お好み焼きが大好きで、我が家にもオオタフクソースは常備しています。この作品をご覧になったら、お好み焼きがとっても食べたくなるかもしれません。サイトに詳しい作り方も載っているので、アニメと合わせてぜひ楽しんでご覧くださいね。

コトリンゴ

ポストン・パークリー音楽大学に留学し、学位を取得後、ニューヨークを拠点に演奏活動を開始。2006年に坂本龍一に見い出され、シングル『こんにちば またあした』で日本デビュー。現在までに10枚のアルバムを発表。アニメーション映画「この世界の片隅に」の音楽を担当し、日本アカデミー賞優秀音楽賞、毎日映画コンクール音楽賞、ほか受賞。映画、アニメのサウンド・トラックや多数のCM音楽を手がけるなど、クリエイターからの支持も高い。卓越したピアノ演奏と柔らかな歌声で浮遊感に満ちたポップ・ワールドを描くアーティストとして、活躍中。



尾身美詞さんコメント

5月に広島へ舞台挨拶に伺った際、片瀨監督とチームの皆さまに、老舗のお好み焼き屋に連れて行っていただきました。それがまさか！このように繋がるとは！！沢山のご縁に感謝です！1028歳のフクコは、様々な世界を生きているという設定で、いつの時代でもお好み焼きは愛されてきたんだな～としみじみしました。可愛く明るいフクコを想像して収録に挑んだのですが、監督からの最初のオーダーは「イジイジした後ろ向きなキャラクターで！」という、意外すぎるお言葉！長い長い時間を生きてきたフクコが、お好み焼きに出会って幸せを感じ、笑顔になっていく・・・という物語に胸がキュンとなり、ダメなところもチャーミング！と感じていただけるようなキャラクターになるといいな、と演じさせていただきました。

長い長い年月、ずっと愛されているオタフクソースの魅力が、フクコを通して描き出されています。イジイジした愛すべきキャラクターのフクコと一緒に、お好み焼きを通して笑顔になっていただければ嬉しいです。アニメを見た後、きっとお好み焼きが食べたくなることでしょう！

尾身 美詞（おみ みのり）

東京都出身。2006年に劇団青年座に入団し、数々の舞台で活躍。声優として参加した『この世界の片隅に』では、主人公の姉・径子役を演じ、話題となった。2013年より、劇団の枠を超えて集まった女優7人による演劇ユニット「On 7（オンナ）」でも活動。主な出演作品に、『その頬、熱線に焼かれ』『ブンよ、木からおりてこい』『見よ、飛行機の高く飛べるを』『台所の女たちへ』などがある。



制作 MAPPA（マップパ）

日本が誇る老舗アニメスタジオ・マッドハウスの代表を長年務めた丸山正雄が2011年に設立。マッドハウス時代から活躍してきたクリエイターを多数擁し、数々の人気アニメーションを手掛ける。主な作品に、『残響のテロル』（14）『ユリ!!! on ICE』（16）『神撃のバハムート VIRGIN SOUL』（17）、映画『この世界の片隅に』（16）などがある。